

青光塗のための新規色漆の開発

研究期間：令和5～7年度

担当者：会津若松技術支援センター 産業工芸科 吾子 可苗、原 朋弥、佐藤 佑香

材料技術部 分析・化学科 高木 智博

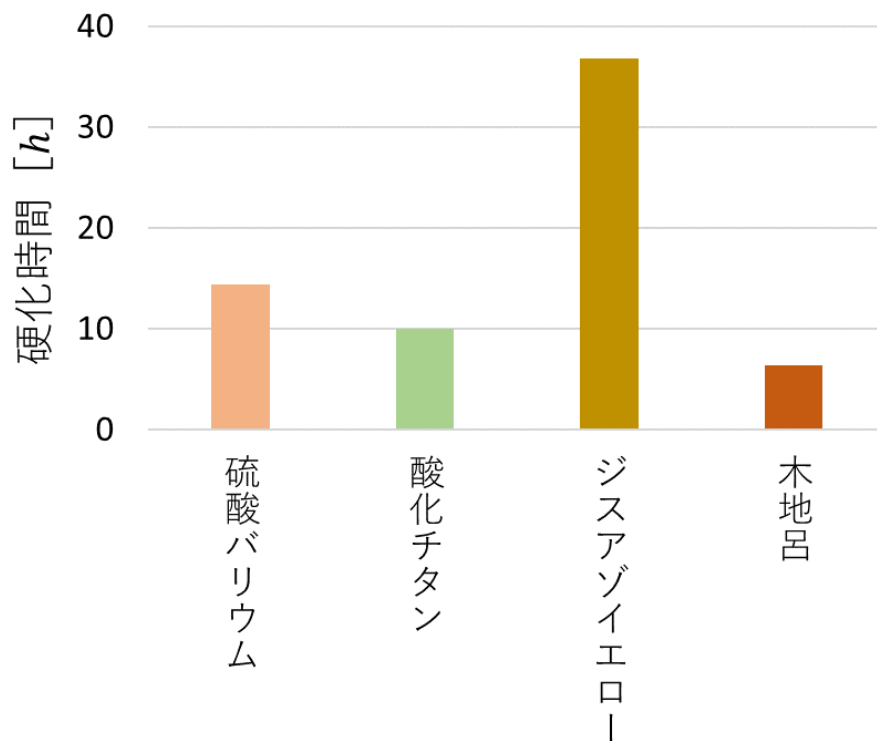


図1 顔料の成分による硬化時間の変化



図2 藍の華


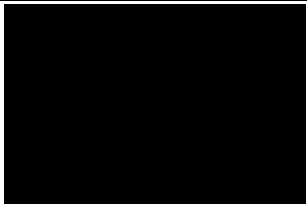
	木地呂漆	木地呂漆+藍の華 (粉末)
色		
L*	27.16	20.03
a*	13.21	0.18
b*	3.25	-0.63

図3 木地呂漆と藍の華の混合

解決すべき課題

江戸期から明治期にかけて、「青光塗（せいこうぬり）」という深い緑色の漆器が製造されていました。しかし、材料の入手が困難なことに加え、技法を受け継ぐ職人がおらず現在は途絶えてしまいました。そこで本研究では、現在入手可能な材料を使用して、青光塗のための色漆を開発するとともに、現代の青光塗としての新たな商品提案を目指します。

研究内容

青光塗について調査をし、どのような材料が使用されていたのか確認したところ、

黄色顔料と藍が使用されていることが分かり、それぞれを漆に混合する方法を検証しました。

結果・まとめ

◎黄色顔料について 黄色顔料に使用されている成分により硬化時間が変化することが分かり、ジスアゾイエローが硬化時間を長くすることが確認できました（図1）。

◎藍について 青光塗の漆への使用方法は、「藍の華」という藍液に浮かぶ泡であることが分かりました（図2）。藍の華を乾燥させて漆に混合させたところ、着色し青味がかかり、硬化することが確認できました（図3）。

詳細な試験研究報告書はこちら！

ハイテクプラザ 試験研究報告書

検索 

・「『青光塗』のための新規色漆の開発」

お問い合わせ窓口 TEL : 024-959-1741 (代表 : 産学連携科)